

DIGITAL PRO MIXER DDM4000

Ultimate 5-Channel Digital DJ Mixer with Sampler, 4 FX Sections, Dual BPM Counters and MIDI

JP

JP 安全にお使いいただくために

**注意**

感電の恐れがありますので、カバーやその他の部品を取り外したり、開けたりしないでください。高品質なプロ用スピーカーケーブル (1/4" TS 標準ケーブルおよびツイスト ロッキング プラグケーブル) を使用してください。

**注意**

火事および感電の危険を防ぐため、本装置を水分や湿気のあるところには設置しないで下さい。装置には決して水分がかからないように注意し、花瓶など水分を含んだものは、装置の上には置かないようにしてください。

**注意**

このマークが表示されている箇所には、内部に高圧電流が生じています。手を触れると感電の恐れがあります。

**注意**

取り扱いとお手入れの方法についての重要な説明が付属の取扱説明書に記載されています。ご使用前に良くお読みください。

**注意**

1. 取扱説明書を通してご覧ください。
2. 取扱説明書を大切に保管してください。
3. 警告に従ってください。
4. 指示に従ってください。
5. 本機を水の近くで使用しないでください。
6. お手入れの際は常に乾燥した布巾を使用してください。
7. 本機は、取扱説明書の指示に従い、適切な換気を妨げない場所に設置してください。取扱説明書に従って設置してください。
8. 本機は、電気ヒーターや温風機器、ストーブ、調理台やアンプといった熱源から離して設置してください。

9. 二極式プラグおよびアースタイプ (三芯) プラグの安全ピンは取り外さないでください。二極式プラグにはピンが二本ついており、そのうち一本はもう一方よりも幅が広がっています。アースタイプの三芯プラグには二本のピンに加えてアース用のピンが一本ついています。これらの幅の広いピン、およびアースピンは、安全のためのものです。備え付けのプラグが、お使いのコンセントの形状と異なる場合は、電気技師に相談してコンセントの交換をして下さい。

10. 電源コードを踏みつけたり、挟んだりしないようご注意ください。電源コードやプラグ、コンセント及び製品との接続には十分にご注意ください。

11. すべての装置の接地 (アース) が確保されていることを確認して下さい。

12. 電源タップや電源プラグは電源遮断機として利用されている場合には、これが直ぐに操作できるよう手元に設置して下さい。

13. 付属品は本機製造元が指定したもののみをお使いください。



14. カートスタンド、三脚、ブラケット、テーブルなどは、本機製造元が指定したもの、もしくは本機の付属品となるもののみをお使いください。カート

を使用しての運搬の際は、器具の落下による怪我に十分ご注意ください。

15. 雷雨の場合、もしくは長期間ご使用にならない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

16. 故障の際は当社指定のサービス技術者にお問い合わせください。電源コードもしくはプラグの損傷、液体の装置内への浸入、装置の上に物が落下した場合、雨や湿気に装置が晒されてしまった場合、正常に作動しない場合、もしくは装置を地面に落下させてしまった場合など、いかなる形であれ装置に損傷が加わった場合は、装置の修理・点検を受けてください。



17. 本製品に電源コードが付属されている場合、付属の電源コードは本製品以外ではご使用いたしません。電源コードは必ず本製品に付属された電源コードのみご使用ください。

18. ブックケースなどのような、閉じたスペースには設置しないでください。

19. 本機の上に点火した蝋燭などの裸火を置かないでください。

20. 電池廃棄の際には、環境へのご配慮をお願いします。電池は、かならず電池回収場所に廃棄してください。

21. 本装置は 45°C 以下の温帯気候でご使用ください。

法的放棄

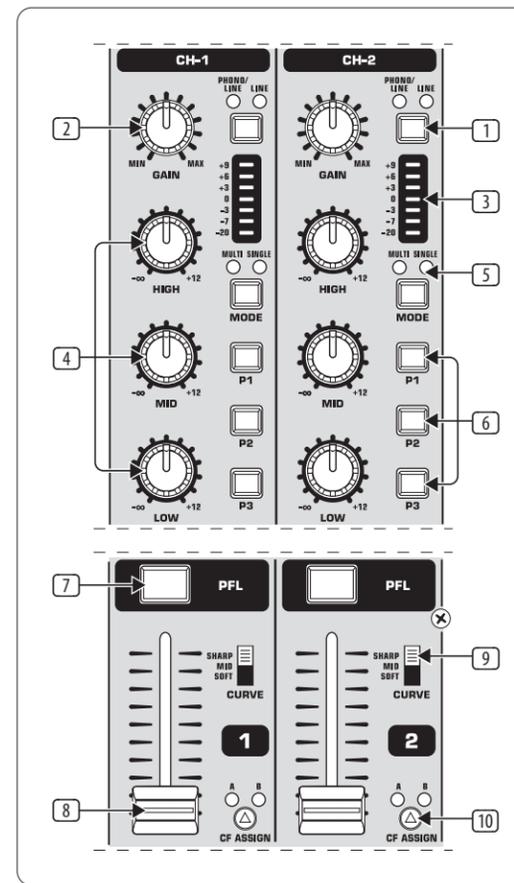
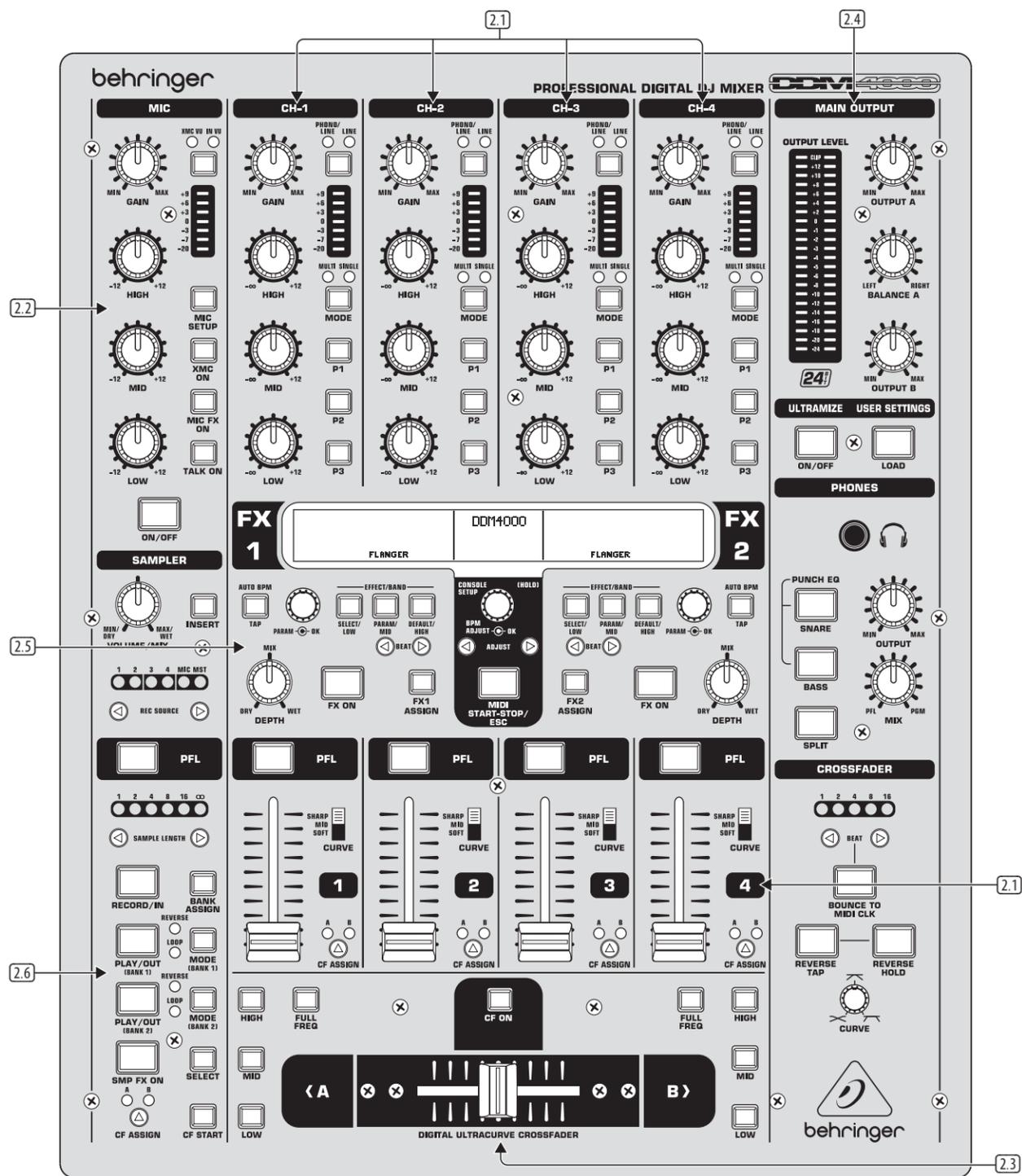
ここに含まれる記述、写真、意見の全体または一部に依拠して、いかなる人が損害を生じさせた場合にも、Music Tribe は一切の賠償責任を負いません。技術仕様、外観およびその他の情報は予告なく変更になる場合があります。商標はすべて、それぞれの所有者に帰属します。Midas、Klark Teknik、Lab Gruppen、Lake、Tannoy、Turbosound、TC Electronic、TC Helicon、Behringer、Bugera、Aston Microphones および Coolaudio は Music Tribe Global Brands Ltd. の商標または登録商標です。© Music Tribe Global Brands Ltd. 2023 無断転用禁止。

限定保証

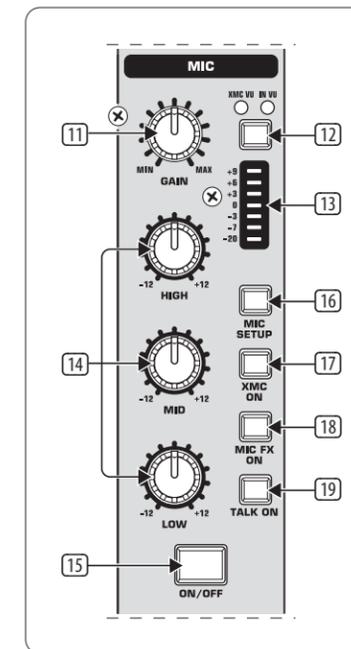
適用される保証条件と Music Tribe の限定保証に関する概要については、オンライン上 community.musictribe.com/pages/support#warranty にて詳細をご確認ください。

DIGITAL PRO MIXER DDM4000 コントロール

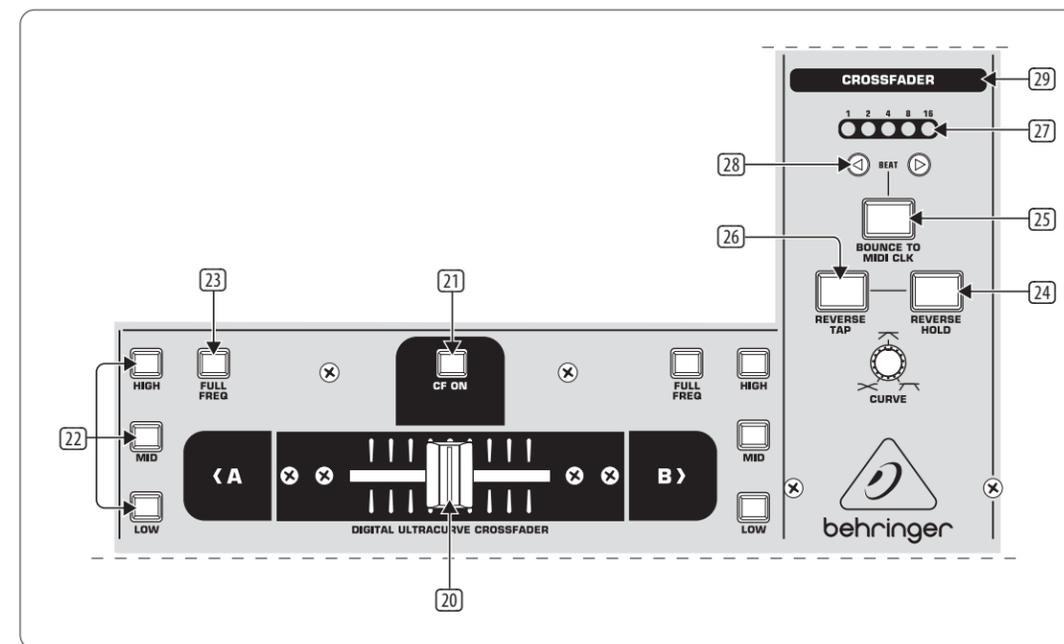
JP



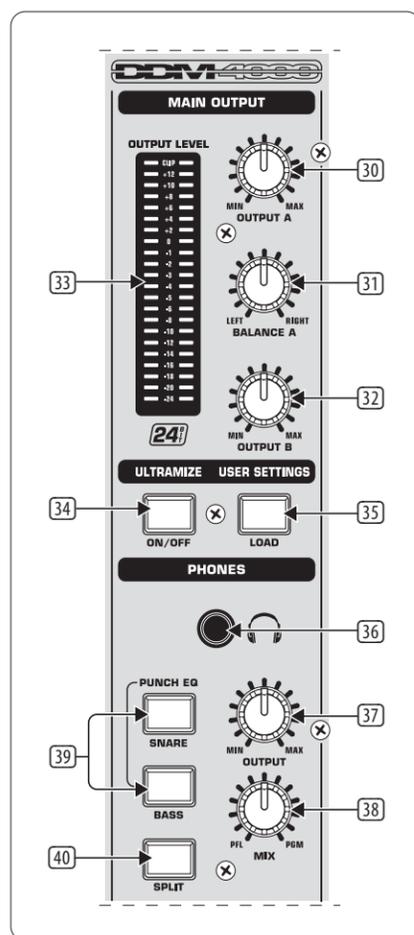
2.7 ステレオチャンネル 1 - 4



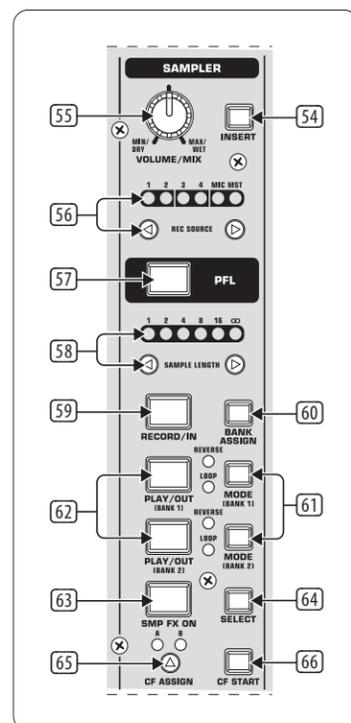
2.11 マイクチャンネル



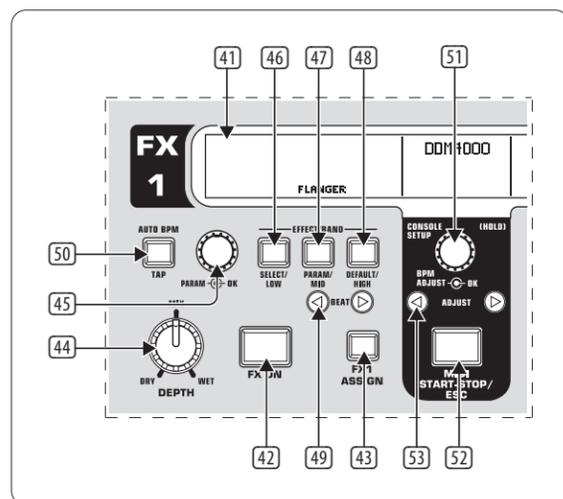
DIGITAL PRO MIXER DDM4000 コントロール



24 メインおよびフォンセクション



25 サンプラー



26 FXセクション

DIGITAL PRO MIXER DDM4000 コントロール

コントロール

- ① この入力選択スイッチで、二つの音源を切り替えることができます。ラインを選択すると、ライン入力 [67] からの信号がモニターできます。Phono / Line を選択すると、Phono / Line 入力 [68] の信号がモニターできます。
- ② **GAIN** コントローラーは、入力信号のレベルを調節します。レベルメーター [3] に現在のレベルが表示されます。
- ③ この 7 段階 LED メーターに入力信号レベルが表示されます。
- ④ 各入力チャンネルには、Kill 機能を備えた 3 バンド EQ (**HIGH**, **MID** および **LOW**) が備えられています。最大 12 dB までのブースト、および最大 $-\infty$ dB までのカット (Kill) が可能です。Kill 機能を使えば、特定の周波数帯域をミュートすることができます。各 EQ コントローラーを左に廻しきると、信号は完全にミュートされます。すべての EQ パラメータは **Channel Setup (チャンネル設定)** で調節可能です。
- ⑤ **MODE** プッシュボタンは、プリセット プッシュボタン [6] の働きを Multi (マルチ) から Single (シングル) に切り替えます。
- ⑥ プリセットプッシュボタン **P1**, **P2** および **P3** を使って EQ プリセットの保存および起動が可能です。シングルモードで起動した場合、これらのボタンで最大カットが行えます (Kill 機能)。
- ⑦ **PFL** プッシュボタンを押すと、ヘッドフォンでチャンネル信号のモニターが行えます。
- ⑧ このフェーダーでチャンネルの音量を調節します。
- ⑨ **CURVE** スイッチで、フェーダーのレスポンス特性が調節できます。**SOFT** モードでは、フェーダーは上段でやや遅めの動きをみせますが、下段では素早い反応をします。**SHARP** モードでは、上段三分の一のところでは素早い動きをしますが、下段では遅めの動きをします。**MID** モードでは、全体的に一定した効き具合となります (リニア)。モードを切り替えた際の音量差は明瞭に聞き取ることができます。そのため、音楽をプレイしている際は決してスイッチを切り替えないでください。
- ⑩ **CF ASSIGN** プッシュボタンで、クロスフェーダー [20] のどちら (A または B) にモニター用の信号を送るかを決定できます。
- ⑪ **GAIN** コントローラーで MIC1 入力のマイク信号レベルを調節します。
- ⑫ このスイッチで、どの信号をレベルメーター [13] に表示させるかを決定します。**IN VU** には未処理の入力信号レベルが表示されます。これでマイク信号の適切な調節が行えます。**XMCVU** には **ULTRAMIC** プロセッサ通過後のレベルが表示されます。
- ⑬ 7 段階 LED メーターには、マイクチャンネルのレベルが表示されます。
- ⑭ マイクチャンネルセクションには、3 バンドイコライザー (**HIGH**, **MID** および **LOW**) が装備されています。調節可能帯域は ± 12 dB です。**マイク設定** では、すべての EQ パラメータを調節可能です。
- ⑮ **ON/OFF** プッシュボタンで、マイクチャンネルのオン / オフを切り替えます。
- ⑯ **MIC SETUP** プッシュボタンを押すと、ディスプレイに **Mic Setup (マイク設定)** メニューが表示されます。ここでイコライザー、**ULTRAMIC** プロセッサ、**MIC FX** (エフェクトプロセッサ) の設定調節が行えます。
- ⑰ **XMCON** プッシュボタンで、2 バンドコンプレッサーとエキスパンダーを備えた **ULTRAMIC** プロセッサを起動させることができます。**ULTRAMIC** の設定は、**マイク設定** で行えます。
- ⑱ **MIC FX ON** プッシュボタンを押すとマイクエフェクトプロセッサが起動します。**マイク設定** でエフェクトを選択してください。
- ⑲ **TALK ON** プッシュボタンで、トークオーバー機能を起動させることができます。マイクに向かって話すと、音楽の音量レベルが下がります。音楽をかけている最中に、観客に話しかける際などに便利な機能です。関連機能の設定はすべて **Talk Setup (トーク設定)** で行えます。
- ⑳ 交換可能なこのクロスフェーダーは、A と B の両面にアサインされた信号を交互に切り替える際に使用します。**CF** アサインプッシュボタン [10] と [65] を使って、ステレオチャンネルとサンプラーをアサインすることが出来ます。
- ㉑ **CF ON** プッシュボタンで、クロスフェーダーを起動させます。プッシュボタンを押さなければ、各チャンネルの信号はメイン出力にそのままルートされます。
- ㉒ クロスフェーダーの両脇には 3 つのキルプッシュボタン (**HIGH**, **MID** および **LOW**) が備えられており、特定の周波数帯域をミュートすることができます。**Crossfader Setup (クロスフェーダー設定)** で、キルプッシュボタンとの併用でクロスフェーダーの機能を拡張させる X-OVER モードを起動させることができます。
- ㉓ **FULL FREQ** プッシュボタンを押すと、**KILL EQ** [22] の周波数カットを取り除くことが出来ます。
- ㉔ **CURVE** コントローラーでクロスフェーダーのレスポンスを調節することが出来ます。
REVERSE 機能でクロスフェーダーの構成を逆 (リバース) にすることができます。これによってチャンネル A と B をスイッチ一つですばやく切り替えることが出来ます。
REVERSE HOLD でリバース機能を常時起動させることができます。これを使うと、クロスフェーダーはサイド A と B を逆方向にフェードさせることができます。
REVERSE TAP はリバース機能を一時的に起動させます。**TAP** プッシュボタンを押している間のみ、サイド A と B が逆になります。
- ㉕ **BOUNCE TO MIDI CLK** プッシュボタンを押すとバウンス機能が起動します。プッシュボタンを押すと、信号が **BEAT** プッシュボタン [28] で事前に選択したインターバルにあわせて繰り返し A から B を交互に行き来します。
- ㉖ **BEAT** プッシュボタンで、バウンスレートを決定します。1 拍 (ビート) から 16 拍の選択ができます。
- ㉗ この LED に選択した拍数が表示されます。
- ㉘ **OUTPUT A** コントローラーで、出力 A [73] の音量を調節します。
- ㉙ **BALANCE** コントローラーは出力 A のステレオパンの調節を行います。
- ㉚ **OUTPUT B** コントローラーで出力 B [74] の音量を調節します。
- ㉛ 高解像 22 段階 **OUTPUT LEVEL** メーターは、**OUTPUT A** の出力信号レベルを表示します。
- ㉜ **ULTRAMIZE ON/OFF-** プッシュボタン: **ULTRAMIZER** は、ダイナミックコンプレッションによって信号の音量と抜けの良さを上げる効果です。**Ultramizer Setup** で **ULTRAMIZER** の設定が行えます。
- ㉝ **LOAD** プッシュボタンで、ミキサーのコーダー設定を呼び出すことが出来ます。装置に電源を入れると、前回起動時に使用していた設定が呼び出されます。
- ㉞ **PHONES** 端子 (6,3-mm ステレオフォンジャック) にヘッドフォンを接続します。
- ㉟ この **OUTPUT** コントローラーで、ヘッドフォンの音量調節を行います。
- ㊱ **MIX** コントローラーは PFL 信号 (PFL = プリフェーダーリスニング、フェーダーの影響を受けないモニター信号) と PGM 信号 (PGM = プログラムマスター信号) のバランスを調節します。このコントローラーを左に廻しきると、PFL 信号のみが出力され、右に廻しきると、マスター信号のみが出力されます。このコントローラーの位置で、両信号のミックス量を調節することが出来ます。
- ㊲ **PUNCH EQ** 機能は、二つのトラックを同期化するのに便利です。スネアやベースドラム、もしくはその両方を強調したい際に、**SNARE** もしくは **BASS** プッシュボタンを押すと、選択されたサウンドがヘッドフォンでより強調されて出力されます。
- ㊳ **SPLIT** プッシュボタンを押すと、PFL 信号がヘッドフォンの左チャンネルから、PGM 信号が右チャンネルからそれぞれ出力されます。
- ㊴ グラフィックディスプレイには **BPM** 値、エフェクト名、エフェクトパラメータ、さらにチャンネル割付が表示されます。コンソール設定ページからも確認できます。
- ㊵ **FX ON** プッシュボタンでエフェクト装置を起動させます。
- ㊶ **FX ASSIGN** プッシュボタンを押すと、エフェクトを一つの信号に割り付けることが出来ます (プッシュボタンが点滅します)。利用可能な入力信号音源がディスプレイ上に表示されます。**PARAMETER** コントローラー [45] を押しながら廻して、お好みの音源を選択してください。
- ㊷ **DEPTH** コントローラーは、エフェクトの効きの強さ (デプス) を調節します。エフェクトによっては、原音 (ドライ信号) とエフェクト信号 (ウェット信号) のミックスバランスの調節用として機能します。
- ㊸ **PARAM** コントローラーを押してエフェクトパラメータを選択します。コントローラーを廻してディスプレイ上に表示されたパラメータを変更することが出来ます。
- ㊹ **SELECT / LOW** を押すと、ディスプレイ上のエフェクトリストにアクセスできます。コントローラー [45] を押して、プリセットを呼び出してください。
- ㊺ **PARAM/MID** プッシュ ボタンを押して、エフェクト パラメータにアクセスします。ノブ [45] を回してパラメータ値を変更します。

DIGITAL PRO MIXER DDM4000 コントロール

コントロール

- ① **DEFAULT/HIGH** を押すとプリセットが保存されます。
- ② 選択したエフェクトによっては、**BEAT** プッシュボタンでタイムベースのパラメータ調節が行えます。しかし、入力できる値はミリ秒単位ではなく、拍単位となります。
- ③ テンポを手動で入力するには、このプッシュボタンを音楽のリズムに合わせて最低 2 回軽く叩いてください (TAP)。**AUTO BPM/TAP** プッシュボタンを 1 秒以上押し続けると、自動テンポ入力機能 (AUTO BPM) が再び有効となります。
- ④ **CONSOLE SETUP** コントローラーを廻すと、MIDI クロックのテンポが調節できます (コントロールを同時に押し廻すと、コース調節が行えます)。コントロールを軽く押すと、設定変更が確認されます。コントロールを押し続けると **コンソール設定** にアクセスできます。
- ⑤ **MIDI START/STOP/ESC** で MIDI クロックを有効にします。
- ⑥ **ADJUST** プッシュボタンで BPM カウンターのテンポを MIDI クロックに転送します。サンプラー
- ⑦ **INSERT** ボタンを押すと、サンプラー信号をチャンネルにループさせることができます (インサートモード)。このボタンを押さない場合、サンプラーは選択したチャンネルにミックスされます (ミックスモード)。サンプラーの再生は、いずれの場合も **REC SOURCE** ボタンで行います。サンプラーがクロスフェーダーにルートされている場合、**INSERT** ボタンの LED が点灯します。
- ⑧ **VOLUME/MIX** コントローラーは、ミックスモードの際はサンプラーの音量、インサートモードの場合は入力信号とサンプラーの音量バランスを調節します。
- ⑨ **REC SOURCE** ボタンでサンプラーの録音と再生を行いたいチャンネルを選択します。
- ⑩ **PFL** ボタンを押すと、ヘッドフォンでサンプル信号のモニターが行えます。
- ⑪ **SAMPLE LENGTH** で、録音時間を設定します (1 から 16 拍までか、エンドレスループ ∞)。
- ⑫ **RECORD/IN** ボタンでサンプラーの録音を開始します。録音を始める前に、録音先となるメモリーバンクを選択してください。ボタンをもう一度押すと録音は終了します (∞ モードのみ)。
- ⑬ **BANK ASSIGN** ボタンで録音を保存したいバンク先を選択します。バンクを選択すると、該当する **MODE** ボタン ⑯ が点灯し、録音準備が出来たことを知らせます。
- ⑭ **MODE** ボタン (バンク 1 およびバンク 2) でサンプラーの再生方法を選択します (Reverse = 巻き戻し; Loop = ループ)。ボタンを短く押すとリバース機能が、ボタンを長く押すとループ機能が、それぞれ起動 / 解除します。
- ⑮ **PLAY/OUT** ボタンで、録音したサンプルを再生します。ループ設定になっていない場合、サンプルは **PLAY** ボタンを押している間のみ再生されます。
- ⑯ **SMP FX ON** ボタンでブレーキ効果を起動させます。
- ⑰ **SELECT** ボタンを押してブレーキの長さを設定します (1, 4 または 8 のビートブレーキは、ディスプレイの中心に表示されます。)
- ⑱ **CF ASSIGN** ボタンで、クロスフェーダーのどちらにサンプラー信号を送るかを決定します。
- ⑲ サンプラーがクロスフェーダーに割り付けられている場合、クロスフェーダーでサンプラーをスタートさせることができます。**CF START** を押してクロスフェーダースタートを起動させます。事前に **BANK ASSIGN** で、フェーダースタートさせたいバンクを選択してください。
- ⑳ ライン信号は、**LINE** 入力端子に接続します。(例 CD プレイヤー、サウンドカード、ドラムコンピューター)。
- ㉑ **PHONO** 入力端子にはターンテーブルを接続します。
- ㉒ **PHONO/LINE** スイッチで **PHONO** 入力をラインレベルに切り替えれば、**PHONO** 入力に CD プレイヤーを接続することが可能になります。
- ㉓ **GND** 接続は、ターンテーブルのグラウンド接続用です。
- ㉔ バランス型 XLR コネクターにはダイナミックマイクを接続します。
- ㉕ **MIC 2** 入力用の **LEVEL** コントローラーです。
- ㉖ **OUT A** 出力端子 (XLR) **OUT A** 出力 (XLR) にアンプを接続し、**OUTPUT A** コントローラー ⑳ で音量レベルを調節します。**SUBWOOFER** 出力は、サブウーハ接続専用です。DDM4000 には、クロスオーバーネットワークが含まれています。クロスオーバー周波数は、**Output Setup (出力設定)** で設定できます。
- ㉗ 出力には、**OUT A**、**OUT B**、および **TAPE** 出力が装備されています。
- ㉘ **DIGITAL OUT** は、DDM4000 のデジタル出力端子です。ここに **TAPE** 信号が CD と同じ音質 (16 Bit/44.1 kHz) で送り込まれます。
- ㉙ **MIDI IN, OUT, THRU**: これらの三つの MIDI 端子には、外部の MIDI 機器を接続し、MIDI クロックで同期させることができます。
- ㉚ 電源への接続には標準型 **IEC** コネクター付きケーブルを使用します。専用ケーブルは本体装置に付属しています。
- ㉛ **ヒューズホルダー / 電圧セレクト。**
- ㉜ **POWER** スイッチを押して DDM4000 に電源を投入します。本機を電源コンセントに接続する際には、必ず **POWER** スイッチを「オフ」にしておいてください。装置を使用する際は、電源コードにすぐ手が届くようご注意ください。

技術仕様

オーディオ入力	
マイク 1/2 (XLR、電子バランス)	
最大 入力レベル	-14 dBu
入力インピーダンス	2 kΩ
フォノ(RCA)	
最大 入力レベル	-18 dBu
入力インピーダンス	47 kΩ
フォノ(RCA)	
最大 入力レベル	-18 dBu
入力インピーダンス	15 kΩ
オーディオ出力	
OUT A (XLR、バランス)	
最大 出力レベル	+21 dBu
出力インピーダンス	200 Ω
OUT A / OUT B / TAPE (RCA)	
最大 出力レベル	+21 dBu
出力インピーダンス	100 Ω
電話を切る	最大 260 mW @ 100 Ω / 1% THD
S/PDIF	(同軸、16 ビット、44.1 kHz)
イコライザ	
ステレオロー	-∞ dB / +12 dB
ステレオミッド	-∞ dB / +12 dB
ステレオハイ	-∞ dB / +12 dB
マイクロー	-12 dB / +12 dB、シェルフ
マイクミッド	-12 dB / +12 dB、ピーク
マイクハイ	-12 dB / +12 dB、シェルフ
デジタルエフェクトプロセッサ	
DSP	2x アナログデバイスズブラックフィン
AD / DA コンバーター	24 ビットシグマ -Delta128 倍のオーバーサンプリング / Cirrus
サンプリングレート	44.1 kHz
LCD ディスプレイ	320 x 40 ピクセル
MIDI インターフェース	5 ピン DIN ジャックイン / アウト / スルー

システム仕様	
周波数応答	
マイク	25 Hz - 20 kHz、+0 / -3 dB
フォノ	20 Hz - 20 kHz、+0 / -3 dB
ライン	20 Hz - 20 kHz、+0 / -3 dB
信号対雑音比	
マイク	> 87 dB
フォノ	> 83 dB
ライン	> 102 dB
歪み (THD)	<0,009% (ライン - OUT A)
クロストーク	<-80 dB / 1 kHz (ライン)
電源	
主電源電圧 / ヒューズ	
100~240 V~, 50/60 Hz	T 1 AH 250 V
消費電力	最大 20 W
メインコネクタ	標準 IEC レセプタクル
寸法 / 重量	
寸法 (H x W x D)	approx. 4 1/3 x 12 3/5 x 15 1/2" approx. 110 x 320 x 392 mm
重量	approx. 12.3 lbs / 5.6 kg

その他の重要な情報

JP その他の重要な情報

1. ヒューズの格納部 / 電圧の選択:

ユニットをパワーソケットに接続する前に、各モデルに対応した正しい主電源を使用していることを確認してください。ユニットによっては、230 V と 120 V の 2 つの違うポジションを切り替えて使う、ヒューズの格納部を備えているものがあります。正しくない値のヒューズは、絶対に適切な値のヒューズに交換されている必要があります。

2. 故障: Music Tribe ディーラーがお客様のお近くにはないときは、musictribe.com の “Support” 内に列記されている、お客様の国の Music Tribe ディストリビューターにコンタクトすることができます。お客様の国がリストにない場合は、同じ musictribe.com の “Support” 内にある “Online Support” でお客様の問題が処理できないか、チェックしてみてください。あるいは、商品を返送する前に、musictribe.com で、オンラインの保証請求を要請してください。

3. 電源接続: 電源ソケットに電源コードを接続する前に、本製品に適切な電圧を使用していることをご確認ください。不具合が発生したヒューズは必ず電圧および電流、種類が同じヒューズに交換する必要があります。

We Hear You